

事務事業マネージメントシート

作成日 平成26年05月09日

事務事業名	自然教室推進事業			担当	教育委員会 自然教育センター		
政策名	B 学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-1277		
施策名	2 小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	真岡市自然教育センターの設置、管理及び使用条例				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 S60 年度～）		
予算科目	1.一般会計	10.教育費	4.社会教育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<p>豊かな自然の中での集団宿泊を通じて未来を担う子どもたちの健全な育成を図ることを目的に、市内小学校3・4・6年生及び中学校1・2年生を対象に、宿泊体験学習を実施している。活動計画は、各学校が主体となり、それぞれの児童生徒の実態や特色を生かして作成している。実施日の1ヶ月前に各学校とセンター指導主事とで打合せを行い、活動計画を確定する。その後、必要な物品の準備及びボランティア指導者の手配をする。活動終了後には活動計画報告書を作成する。</p> <p>自然教育センターにおける事業の円滑な推進と利用学校との緊密な連携を図るため、「自然教育研究会」を3回実施している。</p> <p>(平成21年度分から臨海自然教室推進事業分は別シートで作成)</p> <p>自然教室の事業内容を理解してもらうため、「真岡市小・中学校転入教職員・初任者研修」を1回実施している。</p>						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
<p>25年度実績 入所1ヶ月前の事前打合せ（33回）、必要な物品の準備及びボランティア指導者の手配、活動指導計画書及び活動報告書作成、宿泊学習の実施（小3年：2泊3日、4・6年：3泊4日）、活動指導。 自然教育研究会（年3回） 小・中学校転入教職員・初任者研修開催（年1回）</p> <p>26年度計画 基本的な諸活動面等については、25年度と同様。（小5の利用可） 入所1ヶ月前の事前打合せは、33回。</p>		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア 児童生徒入所週数	週	32	31	32	33	33
		イ 自然教育研究会開催回数	回	3	3	3	3	3
		ウ 小・中学校転入教職員・初任者研修開催回数	回	1	1	1	1	1
		エ						
		オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
<p>自然教育センター利用者数 市内小学校 3・4・6年生 市内中学校 1・2年生</p>		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア 市内小学3・4・6年及び中学1・2年の児童生徒数	人	3989	3871	3896	3868	3941
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
<p>自然の中で様々な体験活動をさせ、心身を鍛える。 集団宿泊生活をさせ、社会性と自立心を養う。</p>		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア 友だちや先生等とのふれあいを深めることでできた児童生徒の割合	%	82.8	90.6	87.4	88.8	90.0
		イ 活動について調べた、準備した児童生徒の割合	%	61.9	64.4	63.4	58.9	65.0
		ウ						
		エ						
		オ						
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか）		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
<p>知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成する。 【より適切に事業を評価できるようにするために、名称を平成21年度より新たに設定しなおした。】</p>		名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)
		ア 自然教室の活動に満足した児童生徒の割合	%	86.6	94.1	90.9	92.8	95.0
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)	
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	10,302	9,474	9,145	8,901	0
	事業費計（A）		千円	10,302	9,474	9,145	8,901	0
人 件 費	正規職員従事人数	人	7	7	7	7	0	
	延べ業務時間	時間	3,481	3,258	3,239	3,351	0	
	人件費計（B）	千円	14,857	13,820	13,610	13,618	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	25,159	23,294	22,755	22,519	0	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等								
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつごろどんな経緯で開始されたのか。		青少年健全育成のための第三の教育の場として、昭和60年4月から始まった。						
② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		昭和60年の開設時は、小学校3年生から中学校3年生までを対象として、2泊3日から5泊6日で実施していたが学校週5日制の段階的実施や、とちぎ海浜自然の家設置（平成4年）とともに一部の学年の利用日数が削減された。また、平成18年度からは、とちぎ海浜自然の家利用の小学校5年生と修学旅行等の中学校3年生が授業時数確保の観点から、自然教育センター利用対象外となった。平成21年度で市有バスの利用が無くなり、平成22年度からは全て借り上げバスの利用となった。						
③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		活動主体の児童生徒は大変楽しみにしている事業である。教職員にとっては利用計画の検討・協議等に時間を割くこととなるが、この事業の教育的效果は認めている。視察者や教育関係者からは高い評価を得ている。						

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 未来を担う子どもたちの健全育成を目的とする本事業は、市の施策に直結し、政策体系と結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 小中学校の教育課程に位置づけられた事業であり、公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内小学校3・4・6年生、中学校1・2年生の全児童生徒を対象とした教育活動である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 児童生徒の満足度が向上するように、活動内容の工夫や活動の主体となる学校との協力・連携を図っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 心の教育・生きる力の育成のための効果的な実践的場である本事業が廃止されることは、心豊かで人間性あふれる人づくりを推進する教育機会を減らしてしまうことになる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費の主なものは、送迎用のバス借上げ料、扶助児童生徒への交付金、活動用の消耗品及び外部指導員への謝金等であり、学校の希望する十分な活動を実施するためには必要最小限の経費であり、保護者への負担軽減のためにも削減できない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 各学校の利用状況に応じた業務であり、目的達成のための必要最小限の人件費で行っている。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 学校教育活動の一環であるとともに、利用者から食費やリネン料を徴収している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し (<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"><thead><tr><th colspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"><thead><tr><th colspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（從来通りで特に改革改善をしない）																								
(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								